紹　介

アジア地域臨床獣医師等総合研修事業

夏 期 全 体 研 修 の 実 施

本事業は，本誌第70巻第5号で紹介したとおり，日本中央競馬会特別振興基金助成により平成28年度から実施しており，今年度4月から第2期研修生10名（フィリピン，台湾，ベトナム，韓国，中国，ミャンマー，モンゴル，スリランカ，インドネシア，タイより各1名を採用）を迎え，全国獣医学系大学のうち，北海道大学，酪農学園大学，岩手大学，東京大学，東京農工大学，麻布大学，日本大学，大阪府立大学，山口大学，宮崎大学において，家畜の越境性感染症や臨床獣医療等に関する研修を実施している．このたび平成30年7月29日～8月8日の日程で，夏期全体研修を国内関連9施設で実施した．

①「東京都芝浦食肉衛生検査所」において，生体から枝肉まで各工程における検査と，同所内での食品衛生上必要な精密検査について学習した．

②「横浜市繁殖センター」において，マレーバク，カンムリシロムクといった絶滅危惧種の繁殖に向けた取組みと，人工授精のための凍結精子保存等について学習した（図1）．

③「瑞穂農場那須支店」において，酪農・畜産，飼料作物生産，受精卵移植まで幅広く運営されている，メガファームの実情を学んだ（図2）．

④「農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門」において，同部門の国内外における動物感染症防除のための取組みについて学んだ．

⑤「JRA美浦トレーニング・センター」において，競走馬の調教，馬の先端的診療施設，蹄鉄加工工程について見学した（図3，4）．

⑥「共立製薬㈱先端技術開発センター」において，ワクチン製造工場，製品の検品・保管工程について見学した．

⑦「酪農学園大学」において，附属動物病院等の施設を見学した（図5）．

⑧「北海道NOSAI研修所」において，日本の農業共済システム，乳房炎起因菌の同定法について実習を含めて学んだ（図6）．

また，日本文化への理解を深めるため，鎌倉を訪問し写経体験等を実施した．

最後に，今回の研修において，ご多忙のところ快く研修生の見学を受け入れていただいた9施設の関係者にこの場を借りて改めてお礼申し上げる．

図1　マレーバクの繁殖施設の見学

図2　㈲瑞穂農場那須支店で説明を受ける研修生

図３　競走馬診療所の手術室を見学する研修生

図４　蹄鉄加工の実演を見学する研修生一同

図５　酪農学園大学附属動物病院を視察する研修生

図６　乳房炎起因菌の同定法について学ぶ研修生